

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0470 ◆◆◆

18/02/14

【相場見通しの修正不可避、今年は「ドル最弱」年か!?】

筆者は、昨年末からトータル4回、2018年の為替市場に関する見通しなどに関してレポートしてきた。しかし、年明けから1ヵ月半しか経過しないなか、早くも相場観の全面的な修正を迫られる展開となっている。詳細は後述するが、先週末の値動きを見ると、今年は筆者が予想した「ドルは中立」などでなく、ヒョッすると「ドル最弱」の一年である可能性すら否定出来ないだろう。仮に、その見通しが正しいならば、ドル/円は年内に100円を割り込み、95円程度までドル安・円高が進行しても不思議はないようだ。

◎「ドル最弱」なら、年内に95円程度までのドル安・円高も否定出来ず

当レターを通じて、昨年末から合計で4回レポートしてきた2018年の相場見通しだが、ポイントを挙げると次の4つに集約される。

- 1) ; 今年のドル/円の大局観は「中立」、年初のオープンを中心に、上下均等に動くイメージ
- 2) ; サイクルの観点から、「ドルは前半に高値を記録し、年後半に安値をつける」
- 3) ; 過去1年近く形成している「大きなボックス相場」を上抜けると予想、ドルの高値メドは120円程度
- 4) ; ドル/円の年間高値を「120円」程度と仮定した場合、「年間変動率」の観点からドルの下値は100-105円と予想される

――まだ一部は相撲で言う「徳俵」上に足を残してはいるものの、大局的にはぶっちゃけ4項目とも「大外し」の様相だ。断定するには若干早いのが、大惨敗の結果と言ってよいだろう。読者の方には「誠に申し訳ございません」という謝罪の言葉しか浮かんでこない。

ただ、そこで止まっていたら仕方がないので、ここからは新たに仕切り直して、今年の相場見通しを再考してみたい。1月17日付の当レターでレポートした、「斎藤流年間変動率(基準レートは今年の寄り付きレート112.65円を使用)」をまずはいま一度掲載する。

- (1); 「ドル強気相場」; ドル高方向に12%、ドル安方向に6% ー ドル高値126.17円、ドル安値105.89円
- (2); 「ドル最強相場」; ドル高方向に17%、ドル安方向に1% ー ドル高値131.80円、ドル安値111.52円
- (3); 「ドル弱気相場」; ドル高方向に5%、ドル安方向に11% ー ドル高値118.28円、ドル安値100.26円
- (4); 「ドル最弱相場」; ドル高方向に2%、ドル安方向に15% ー ドル高値114.90円、ドル安値95.75円
- (5); 「ドル中立相場」; ドル高方向に8%、ドル安方向に9% ー ドル高値121.66円、ドル安値102.51円

先でも指摘したように、筆者は当初上記(5)の「中立」相場の展開を、予想していたわけだが、実勢相場の動きをみるとそうではなく、(3)あるいは(4)、とくに(4)の「ドル最弱相場」の可能性を否定出来なくなっている気がしないでもない。

仮に、この見通しが正しいとすれば、ドル/円は年内に100円の台を割り込み95円程度までドル安・円高が進行しても不思議はないだろう。また、それとは別に、1月相場の特徴であり、4割というなかなかの高確率を誇る「1月に年間の天底をつけるケースが多い」という経験則も気掛かりだ。実際、ドル/円相場は2016年と2017年、過去2年連続で「1月のドルは年間最高値」をつけているが、もしかしたら今年と同様のパターン、つまり終わって見れば「3年連続で1月がドルの年間最高値を記録」――ということになる可能性もないではないのかもしれない。

なお、筆者は前段で指摘した4項目のうち、2)に記したサイクルの観点からの「ドルは前半に高値を記録し、年後半に安値をつける」という見通しだけは基本的に変えるつもりがない。

ただ、筆者は今年の相場について、頭の中で漠然と「2017年型相場」に近いイメージを抱いていたのだが、ここにきては「2016年型相場」のようなイメージに変化をさせている。つまり、「年後半に安値をつける」といっても、2016年同様に7-9月に底入れし、年末にかけてドルが急反発、結果としてVの字型の回復を見せることもありうる気がしないでもない。最後に、今年の年間予想レンジは狭くレンジを取れば「100-115円」、多少広めに予想するなら「95-115円」と考えている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter